

「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」 新約聖書 ローマ5章5節

I 失望に終わらない希望

私たちは、人生の困難に出会う時、私たちを支えるものが希望であることを体験します。ナチス・ドイツの収容所から生き残った一人、フランクフルトは精神科医としてのその後の生涯全体を通して、人生の困難から私たちを救うのは真の希望であることを証言し、最後に「それでも人生にイエスと言う」と言う本を記しました。

聖書は希望には2種類あると言っています。真の希望と失望に終わる偽りの希望です。真実な希望は永遠に残り、私たちに勇気を与えますが、偽りの希望に依存し、それが失望に終わると、人間は前よりももっとひどい絶望に沈んでしまうことがあるのです。

真の希望は私たちの所有物、能力、人間関係や嗜癖等への依存から生まれるものではありません。それらは皆、永遠に残るものではないのです。

永遠の希望は聖書の神への信頼、困難をも忍耐を持って乗り越えた経験、そして何よりも私たちの真の人格から生まれるものと言われます。(ローマ5:1-4)

II 神の愛

しかし、真の希望・永遠の希望へと私たちを導く真の人格はどの様にして形成されるのでしょうか。聖書は神様とその一人子であるイエス・キリストの愛を信じ受け入れることによると主張します。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ3章16節)と書かれている通りです。

この神様の無条件の愛と赦しの中で人間の人格は健全に成長し、永遠に耐えられものと耐えられないはかないものを見分け、永遠に残る真の希望を持つ事が出来るのです。

III 聖霊の働き

人間が真に人間らしく生きるためには信仰と希望と愛が必要です。

「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」(Iコリント13章13節)と言うのが聖書の主張です。そして、信仰と希望はイエス・キリストの愛が生み出す私たちへの贈り物なのです。

人間の知恵ではなく聖霊の働きによって神様の愛を経験することができます。人間の知性や経験には限界があります。しかし、聖書は歴史と文化を越えて世界に最大の影響を与えてきました。皆様も祈り心を持って一緒に聖書を読まれることを心からお勧めいたします。

参)「子育てセミナー10代編」最終回 3月14(金)午前10時半から20Fにて

カウンセリングの申し込みは shbam50@yahoo.co.jp へ原則無料です